

日本の未来: 女性、食、そして健康

ネブラスカ大学 農村未来研究所 所長代行
コニー・ライマーズ・ヒルド

日本は、美しさと、もてなし、そして驚嘆の地です。また情熱、可能性、そして潜在能力に満ちあふれた国です。日本の地方には、世界中の多くの国と同じような大きな課題があります。しかし、私たちが出会った人々や地域コミュニティに広がる積極性と創造性の力強い潮流は日本の大きな財産になっています。積極性と創造性の組み合わせは、真に人を鼓舞し、また豊かな未来に必要なとなるイノベーションの基盤となります。

私が今回の訪問を前に目的を3つ設定しました。まず、第一に日本社会における女性の役割についてもっと知ること。第二に、日本の高齢化全般の状況だけでなく、高齢化における過程そのものを知ること。日本は急速に高齢化が進んでいることで知られていますが、米国などの多くの国に比べて高齢者が健康であることでも知られているからです。第三に、医療制度がどのように機能しているかを知ること。他の国々との共通点や相違点は何なのか？私が所長代行を務めるネブラスカ大学農村未来研究所(Rural Futures Institute)や、女性の未来について戦略的見通しに目を向けた私の会社(Wild Innovation)に役立つ学びは何か？私は生涯にまたとない旅の機会を得て、想像以上に多くのことを学びました。ここでは、以下の所見に限定して議論したいと思います。

1. 女性は社会的表出、表明する手段、そして経済的自立を必要としています。
2. 日本人と食の関係は独特であり、経済のより大きなシェアを牽引する可能性があります。
3. 日本の人々は伝統的な医療に頼らず、より健康に目を向けているように思われます。

女性と未来

私たちはこの旅で何人かの女性と会う機会があり、彼女たちとの交流から多くのことを学びました。私たちが出会った女性たちは、とても独立していて、起業家精神があり、革新的でした。しかし、女性をエンパワーする必要があると思いました。私たちがグループの一員として女性たちと会ったとき、彼女たちが会話を主導したり、男性に邪魔されることなく話す機会は滅多にありませんでした。私の想定では、女性が主要なリーダー的な地位に就くことはほとんどなく、そのことが女性のイノベーターを見つけることを難しくしていると思いました。そのため、当然ながら多くの女性リーダーと出会うことができませんでした。私のもう一つの仮説は、女性はいまだに文化的に男性に従属しているということです。この状況は、米国を含む世界中の多くの場所で見られるものです。

私たちは女性について話し合うことで、私はこの仮説を組み立てました。例えば、訪問プログラムの中であったミーティングでは、日本では政治の世界に女性がいないことについて議論したとき、女性には立候補する余地がないと言われました。私はどういうことなのか追加の説明を求めまし

たが、詳細は語られませんでした。最終的には、女性が議員に立候補をしようとすると、夫たちは離婚すると脅すだろうと言われました。夫が妻と別れることで、女性は財政的に立候補できない、私はそう理解しました。

私たちの大学との交流も男性優位でした。愛媛大学での最初のミーティングでは、話したのは男性の教員と管理職だけでした。愛媛大学で私たちをホストしてくれたのは女性教員で、日本のイノベーターの一人でしたが、私たちの松山滞在中病気のため不在でした。この交流で私は日本の大学の女性教員と管理職の数と地位という重要な問題がどうなっているのかについて逆に知りたかったです。社会が女性をエンパワーしたいのであれば、若い女子と女性は、リーダー的役割についている女性の姿が見えていないといけないはずで

私たちはこの旅行中、たくさんの若い、女子学生に会いました。若くて才能のある多くの女性に会えてうれしかったのですが、一方で多くの子たちは自信や威厳をもって話すことに苦労していました。ほとんどの女性たちは、親切で好奇心にあふれていましたが、同時に恥ずかしがり屋で自信がなさそうでした。女性のエンパワメントという空間においては成長とイノベーションの余地がありますが、日本の農村部における女性の進出を示す証拠があります。今回の旅で最も刺激的で啓発的だったことの一つは、起業家、特に女性起業家の関心と支援の高まりについて学んだことでした。女性起業家や創造性に富んだ女性が自らを表現し、情熱を追求し、彼女たち自身と地域のために経済的豊かさを生み出している姿にワクワクさせられました。



女性たちは、地域の美化から伝統の保存に至るまで、様々な方法での地域文化の向上と促進に取り組むことを通じて、地域の向上に焦点を当てた社会起業家としての役割も果たしているようです。人々が通りを歩いているときに楽しめる壁画を描いている芸術家に出会いました。彼女は壁画について私たちに話すためにいったん手を止め、さらに一緒に写真を撮るためにポーズも取っ

てくれました！日本の伝統文化の保存に取り組んでいる女性とも会いました。

私たちは、歴史的な醸造所を見学しながら、日本酒の文化や歴史について学びました。そこでは所有者の母親がじきじきに接客していました。私たちのグループは、高齢者グループのお茶会に参加するというとても嬉しい体験もすることもできました。彼女たちは週一回集り、互いにつながることで、より幸せで健康的な生活を送り続けようとしているのです。

個人的に、今回の旅で最も深遠な機会だったことの一つは、日本の神社での素晴らしい体験でした。一人ひとり手を洗い、お辞儀をして、建物に入る前に鈴を鳴らしました。歴史、芸術、そして畏敬の念をもって神社の建物の中に迎えられました。はじめの2分間は、「日本の



神社に自分が実際にいるなんて信じられない」という思いが私の頭をかすめました。私は崇敬と驚きで、神社の説明に十分注意を払えないほどでした。

ここで宗教を議論のポイントして挙げるのは、社会における女性の役割や処遇が宗教的な信念によって形成されることが多いからです。信念や規範が徐々に発展するにつれて、新たな課題と機会が生まれます。日本は他の国々と比べ同様の変化を体験しているようです。女性と男性の互いの役割と要求は変化しており、それは既存の文化的規範とステレオタイプを揺るがします。この進

歩は、新しく肯定的な方法で社会を形成する機会となります。米国などの国々で多くの女性たちが追求している進路は起業家精神です。なぜでしょう？伝統的な職場環境や文化は、女性やその家族に彼女らが強く望む柔軟性や機会を提供しないからです。研究によると、女性は伝統的な職場環境を離れて自分のビジネスを確立するか、自身のスキル、才能、願望によって収入を生み出しつつ、実現したいライフスタイルを作り出すことができる「ギグエコノミー」に参加します。起業家精神は、女性だけでなく男性にとっても重要な進路となりつつあります。



私たちは、革製品を修理・制作する男性の起業家とも話をしました。彼は、自身の工芸の技術からビジネスの判断力まですべてを独学で学びました。人とのつながりによって、彼はオンラインで商品を購入し、東京などに住む顧客からカスタムオーダー製品を作る機会を得ました。この若い起業家は、十分に人生を楽しむことを可能にするビジネスを始めるために、より田舎のコミュニティに住むことを選んだのだと私たちに語りました。彼にとって人生を楽しむとは、家族と釣りに十分な時間を持てることを意味していたのです！起業家の努力は、人びとを彼らが重んじ、楽しむ食べ物を生産する地域と結びつけています。

食べ物&地域応援団:革新的な農業

起業家精神とイノベーションの他の例は、地域応援団、米の契約、『食べる通信』、ホップ祭、そして日本のイノベーターが開発した他の地域の巻き込み戦略などがありました。いずれのケースも、地域は製品や、サービス、その他のイノベーションを通じてつながっていました。農業は、明らかに人々と地域コミュニティを結びつける一方、経済を牽引する原動力として機能しています。より多くの人々に食の生産と調理に関するユニークな経験を提供するという考えは、将来日本の国家経済を支



えながらも、より多くの消費者を参加させる可能性を秘めています。これらの革新的な考え方は、世界中の栽培家やリーダーが自分たちの事業を成長させたり、拡大するのに役立つ戦略的参加の例となるでしょう。日本の生産者や作物は、商品の売買を超える経済を支え、また農産物も、高額な保健医療の介入の必要性を減じる健康的な食を提供することによって経済を支えているのです。

日本の農業における飛躍的インパクト:より健康的な国民？

特に農業分野における起業家精神とイノベーションは、日本中の高齢化と健康を支えているようです。新鮮な果物や、野菜、肉が農村・都市部の両方の成功の要であることは明らかでした。さらに、旅行中に会った日本のリーダーのほとんどは、健康的な食事、他人とのつながり、そして情熱の実現を通じた健康に目を向けていました。研究が示すように、これらの要因は、より肯定的に年を重ねるための要となります。日本の高齢者は、通常アメリカなどの他国の高齢者よりも健康です。



多くの日本のリーダーは医療制度について尋ねられると、必要なときに利用可能だと答えました。私たちが高齢の女性たちとお茶を飲んだ地域では、医師と医療提供者が対応可能でしたが、常勤ではなく、間欠的な対応ということでした。その地域には、医療従事者が時々地域住民を診る小さな建物がありました。



彼らの考え方は、アメリカ中西部の田舎に住む多くの高齢者のそれとは大きく異なるようです。頻繁に医者に行こうとは考えておらず、どちらかという、絶対に必要なときだけ医者に行きます。私たちが話した高齢者の多くは、引退や病気についての話をしませんでした。彼女らは自分たちの生活の中で喜びをもたらすことに目を向け、本当に人生に感謝しているように見えました。お茶会は、女性たちを家から出すことを目的としていましたが、お話、健康的な食事、そして(私たちが驚かしてくれた)

楽しい経験の共有に特化した本当に素晴らしい時間でした。健康的に食事することを含む幸福(ウェルビーイング)は、私たちが会った日本のイノベーターたちが牽引する地域と経済発展のモデルの中心となるものでした。彼らの考え方は、人びとを食べ物、身体、地域、人びと自身と結びつけるのです。これは詳細に検討すべき価値がある考え方です。

最後に:私たちはどんな未来を創りたいのか？

両国の農村地域とリーダーは、お互いにもっと多くのことを学びあえると思います。また、人と地域が成長することの手助けをする農村のイノベーションを本気で支援するのであれば、この豊かな交流はさらに大きくなるといけないのです。日米のイノベーターの間のリーダーシップ交流は私の人生を変えました。私や私のグループの皆が経験した日本のおもてなし、創造性、そして情熱をとて恋しく思います。オープンなおもてなしによって、アイデアや可能性を探求するのが容易にしてくれました。農村地域に役立つために、いま一度私たちのもつ文化的な規範やシステムを問い直すときに来ています。私たちは、すべての人に役立つ未来を創造する必要があります。それはその過程により多くの声が含まれることを意味します。これには女性の声も含まれます。

日本から帰国して1週間後、私はフランスのパリへ向かう飛行機に乗っていました。私は「2018年女性リーダーシップ・グローバル・サミット」で、都市の将来についての議論を促すパネルに参加したのです。サミット自体は、女性の参加とエンパワメントの重要性に焦点を当てていたため、女性たちには将来の発展をけん引する役割がありました。私自身の仕事と人生、そして日本への旅行、そしてその後のパリへの旅行はを通じて、女性をエンパワーするだけでなく、共に社会として前進

していくために必要な文化的な規範とシステムを創造するために女性が社会的起業家やリーダーになるように働き掛ける必要があることを強く感じました。女性たちは準備ができていますが、社会や組織はまだなのです。これを変える必要があります。私は日本への旅行の前よりも、さらに深いレベルでこれを起こすことに情熱をつぎ込みます。この旅は、私の人生や考え、そして何が可能なのかについての私の考えを変えました。他の参加者の生活とリーダーシップが、私と同じくらい変わったのであれば、このプログラムは人類の未来を変える可能性をもっています。まだ答えられていない質問は、私たちはどんな未来を「一緒に」創りたいのか？です。

